

南部菱刺しの現代的表現に向けての試み

川守田 礼子[†]・大久保 真季^{††}・原子 媛乃^{†††}

Approaches for Modern Expression of Nambu Diamond Embroidery

Reiko KAWAMORITA[†], Maki OOKUBO^{††}, Himeno HARAKO^{†††}

ABSTRACT

Nambu Diamond Embroidery is traditional handwork inherited in the Nambu region of Aomori prefecture, and attract public attention in the area of handcrafts as well as Koginsashi inherited in the Tsugaru region. In this paper, new products placing emphasis on the modern sense and having an appeal for young women are suggested.

Key Words: Nambu Diamond Embroidery, Koginsashi, Regional Cultural Studies, handwork, modern sense, young women

キーワード: 南部菱刺し, こぎん刺し, 地域文化研究, 手仕事, 現代的感覚, 若い女性層

1. はじめに

青森県の伝統工芸品に、南部地方の南部菱刺しと、津軽地方のこぎん刺しがある。いずれも農家の女性たちが衣服管理のための手仕事として発展させたものである。江戸時代、青森県内の農民は、藩の衣服統制令により麻の衣服しか着用できなかった。北東北の寒冷な気候と厳しい農作業に堪えうるよう、麻地の衣服に、古くは麻糸、その後に木綿糸を用いて細かく手間をかけて刺し子を施した。これらの仕事には農家の女性が農作業のない夜間や農閑期に従事した。麻地の補修および保温性向上という目的で施された刺し子は、やがて菱模様を単位とした精緻で美しい幾何学的装飾を生み出した。この幾何

学的装飾は、目の粗い麻の布地の目数を規則的に拾って刺すことにより展開する。これが他地域の刺し子には見られない南部菱刺しおよびこぎん刺しの大きな特徴となっている。

近代以降、時代の変化にともない、こうした伝統的手仕事を取り巻く状況が大きく変化した。南部菱刺しやこぎん刺しは、かつては、製作者本人もしくは家族が着用する衣服の補修保温のために行った手仕事であった（製作者＝使用者（消費者））。現代では、本来の製作・使用目的は完全に失われ、南部菱刺しやこぎん刺しは青森県伝統工芸品やハンドメイド製品として製作・販売されるようになった（製作者≠使用者（消費者））。最近は特に、刺し子の手軽さや幾何学模様の高いデザイン性が人気を呼び、手芸品としての価値が高まっている。現代の消費者や手芸愛好家にどのように価値伝達を行っていくのか、現代的ニーズに即したどのような製品や情報を提供していくのかが、南部菱刺しやこぎん刺しの活性化のうえで重要となっている。

本研究では、地域文化研究を行っている創生デザイン学科川守田研究室において、現代のニ

令和2年12月14日受付

[†] 感性デザイン学部創生デザイン学科・准教授

^{††} 感性デザイン学部創生デザイン学科・4年

^{†††} 感性デザイン学部創生デザイン学科・4年

ーズを踏まえた南部菱刺しの新しい価値創出を目指し、現代的感覚を重視した、若い女性層に訴求できるような新しい製品の提案として、2点の作品製作を行った。南部菱刺しと御朱印帳を組み合わせた作品A（大久保真季製作）、レジンアクセサリーとして南部菱刺しを立体的に表現した作品B（原子媛乃製作）である。各作品の詳細について2章、3章において述べる。

2. 作品A「南部菱刺し×御朱印帳」

2.1 作品製作の背景

作品A製作の契機となったのは、数年前より女性層を中心に広がった「御朱印ブーム」である。2013年に行われた「伊勢神宮の式年遷宮」と「出雲大社の平成の大遷宮」に伴い、神社やパワースポットに対する関心が高まって以来、ビジネス週刊誌に「空前の御朱印ブームが到来」と題した記事（2016年4月16日）、ビジネス情報サイトに「御朱印ガールブーム」に関する記事（2016年4月30日）が掲載されるなど多くのメディアで「御朱印ブーム」が取り上げられた。ソフトバンクニュース（2018年7月11日）によると、SNSアプリInstagram（インスタグラム）において「#御朱印」のタグがついた写真が80万件以上投稿されていることが明らかになっている。インバウンドニュースサイトには、日外国人観光客が神社仏閣を参拝した際の土産品としても人気との記事（2020年5月22日）が見られるなど、現在も人気が続いている。

このような状況を受け、現在、多様な御朱印帳が製造・販売されている。神社お寺の検索サイト「ホトカミ」掲載の全国御朱印・御朱印帳マップ等を調査すると、各寺社仏閣が発行しているオリジナル御朱印帳のほか、ポップでカラフルな市販製品、アニメや人気キャラクターとコラボした製品など、より広い購買層に訴求力の高いデザイン性を有したものが工夫されていることが分かった。地域の伝統工芸品である南部菱刺しを御朱印帳の装飾に活用し、青森県八

戸地域の神社仏閣参拝を核とした観光活動につなげられる製品を提案することとした。

まず、神社本庁ホームページほか御朱印関連サイトにより、御朱印および御朱印帳の概要について調査した。御朱印とは、寺社仏閣にお参りした際に参拝した証として授けられる印のことである。この印は仏様や神様とご縁を結んだ証明であり、御札や御守りと同じ役目を担っている。また、御朱印帳とは、御朱印を押印し集印するための専用の帳面のことを指す。原点は平安時代以来の最古の巡礼「西国三十三所巡り」とされている。西国三十三所とは、関西に点在する観音様を祀る三十三のお寺の総称である。決められた三十三のお寺を巡り御宝印（御朱印）を戴けば願いが叶う、御宝印が揃った御朱印帳を持っていると極楽浄土ができると信じられていた。御朱印帳が人々の信仰心の拠り所であったことがわかる。

青森県南部地域にも「糠部三十三札所観音霊場巡り」の歴史が残されており、地域文化との関わりが深い。滝尻善英著『奥州南部糠部三十三カ所観音霊場めぐり』などの文献や青森県神社庁ホームページにより、対象となる寺社仏閣は未だ現存しており、地域住民の心に浸透し、地域の中で親しまれてきたことが分かった。

南部菱刺しは、着る人の健康や幸福を祈って一針一針刺された「想いの衣装」と称される。

「誰かを想って刺す」「一針一針に心を込めて刺す」という南部菱刺しの精神性は、御朱印を戴く際の神や仏に対する「真摯な祈り」に通じる。南部菱刺しが持つ「祈り」という共通項を御朱印帳のデザインに取り入れ、地域文化との関わりを有した御朱印帳を提案したいと考え、南部菱刺しと御朱印帳を組み合わせた作品製作に取り組んだ。

2.2 作品概要

本作品は、青森県を訪れた観光客をターゲットとし、特に八戸地域の神社仏閣参拝の記念品・土産品として販売されることを想定し製作した。製作した作品は、御朱印帳と南部菱刺し

カバーのセット（写真1）と、南部菱刺しカバーを購入者が製作する手作りキット（写真2）の2種である。これらには、参拝マナー解説や八戸地域の神社仏閣巡りマップを付すこととした。

御朱印帳本体の構造は、蛇腹式・製本式の試作を経て、見開き易さを優先して蛇腹式を採用した。サイズは、市販物を参考にコンパクトで持ち歩きやすい縦16cm、横11cmとし、奉書紙、和紙を用いて製作した。表紙には女性向けに華やかな色彩の和紙を使用した。奉書紙で作成した中面は御朱印を戴く左側を空白にし、右側にはメモを書くことのできるページとなる様式とした。

南部菱刺しカバーは、厚手の木綿コングレス使用し、端の加工を行った縦17cm、横25cmの一枚布に、編み紐を両端につけて容易に本体に装着できる構造とした。南部菱刺し図案は2種である（図1.2）。構図は、南部菱刺しに特徴的な「三巾前垂れ」の「柘刺し」という構成パターンに基づき、菱を縦に並べる模様構成とした。各菱模様には、八田愛子・鈴木堯子共著『菱刺し模様集』掲載の伝統的単位模様から数種を用いて、「和」と「寺社仏閣」をイメージした図案を製作した。図案はMicrosoft Excel ソフトを用いて製作した（図1.2）。

図案①（図1）は、中央に「やばね」、上下に「梅の花」を配置した。「やばね」は矢の上部に付ける羽根のことで「矢羽（やば）」とも言う。弓矢は儀礼や祝具として使われることはもちろん「破魔矢（はまや）」とも言われ魔を祓う意味を持ち、縁起の良い模様である。「梅の花」は南部菱刺しに最も特徴的な模様である。また、日本を代表する花の一つとして、古くから日本人に愛され、静かに春を待ち続ける様は気高い美しさや高潔なイメージを備えている。

図案②（図2）は、「やばね」と「べこのくら」という模様を用いた。「やばね」は、図案①とは異なるアレンジ模様を用いた。「べこのくら」は牛の背中に付けていた鞍を表し、南部菱刺しで多用される模様である。粘り強い牛は、剛直さや尊厳などの象徴である。

図案①②は南部菱刺しカバー手作りキットにも使用した。キットには御朱印帳本体、カバー生地、刺し糸、図案、刺し方解説シート、参拝マナー解説シート、八戸地域神社仏閣巡りマップをセットにした（写真2）。



写真1 完成作品（御朱印帳・南部菱刺しカバーセット）



写真2 完成作品（南部菱刺しカバー手作りキット）

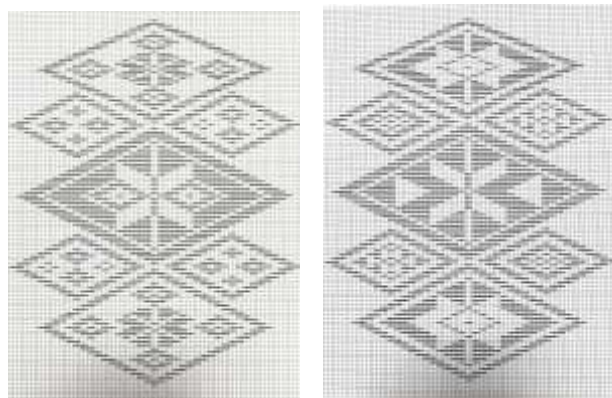


図1 南部菱刺し図案①

図2 南部菱刺し図案②

3. 作品B「南部菱刺し×アクセサリー」

3.1 作品製作の背景

近年、一点もので暖かみがあり、安価で入手

可能なハンドメイドアクセサリーが、Webショップを中心に人気である。その中でも、刺し子、水引、友禅和紙などの伝統工芸品をアクセサリーに応用したハンドメイド製品が販売されており、若い女性層の注目を集めている。ハンドメイドWebショップ人気の火付け役となったのは、GMOペパボ株式会社が2012年1月提供開始した国内最大のハンドメイドマーケット「minne（ミンネ）」である。minneでは、現在72万件以上の作家やブランド・メーカーが出品した千万点以上の作品が販売・展示されている。本サイトを対象に、ハンドメイドアクセサリーに関する調査を行った。

まず、伝統工芸品を用いたアクセサリーを見ると、結城紬、塩沢紬、真田紐、こぎん刺し、南部菱刺し、加賀指貫、琉球ガラス、東京切子など、生産地や素材が多様な商品が販売されていることが分かった。インドネシアバティックやチェコガラスなど海外の伝統工芸も見られた。また、イヤークセサリーやヘアゴムなどの小物類が多い点、1000円前後の手ごろな価格帯の商品が多い点などが分かった。伝統工芸品以外のハンドメイドアクセサリーでは、ピアスやイヤリングなどのイヤークセサリーが圧倒的に多く、素材としてはビーズや布のほか、UVレジン（紫外線硬化樹脂）の人气が最近急激に高まっていることが分かった。

以上の調査結果を踏まえ、青森県の伝統工芸品の南部菱刺しを用いて、特にWebショップで商品バリエーションの多いイヤークセサリーを製作することとした。南部菱刺しの既存商品には、布と糸の風合いを重視した耳飾りやヘアゴム、ブローチなどの小物類が多い。本製作では、従来の南部菱刺し製品との差別化を図るために、既存商品にはないUVレジンという素材で南部菱刺しを表現する。UVレジンによる透過性の高い立方体キューブで南部菱刺し模様を立体的に表現することにより、現代的なデジタル感を表現することとした。南部菱刺しが施された麻地は藍染であったことから、菱模様モチーフとなるレジンキューブのメインカラーを青にした。

3.2 作品概要

本製作では、ハンドメイドアクセサリーを好む女性層をターゲットとし、南部菱刺しの菱模様をかたどったイヤークセサリーを6点製作した。シンプルな菱枠（南部菱刺しでは「アシガイ」と呼ぶ）のみのデザインのほか、八田愛子・鈴木堯子共著『菱刺し模様集』掲載の「小模様」を参考に数種の菱模様を用いた。また、菱模様をプレート状に表現したモチーフや、菱枠の内側に小さな菱模様パーツが揺れるモチーフなど、様々なデザインを考案した。作品サイズは縦2～3cm×横6cm前後とし、菱モチーフが目立つやや大ぶりのサイズにした。

材料は、モチーフ本体にUVレジンを使用し、装飾にパールビーズや金・銀パーツを加え、ヒートン（接合金具）、ピアスパーツを着けてピアスに加工した。

製作工程は、無色透明のUVレジン液を専用の着色剤で着色し、立方体のシリコンモールドに流し込み（写真3）、UVランプで硬化して3mm角のキューブパーツを作製する。UVレジン液着色の際、少しずつ色を変え、青色系グラデーションのキューブパーツを作製した（写真4）。これらのキューブパーツを菱形に成形し、筆で上面に薄く無色透明のUVレジン液を塗り、仮硬化させる。仮硬化の後、さらにその上に無色透明のUVレジン液を丁寧に塗り、再び硬化させる。この作業を、上面が膨らみを帯びるまで2、3回繰り返す。裏面にも同様の加工を施し、菱模様モチーフは完成である。その後、ヒートンやピアスパーツと結合させて完成である（写真5）。



写真3 シリコンモールドに流し込んだ着色レジン液



写真4 UVランプで硬化させた3mm角のキューブパーツ



写真5 完成作品

4. まとめ

本稿では、南部菱刺しという伝統的手仕事を現代的な感覚で応用した学生作品を紹介した。このような新たな試みが伝統的手仕事の活性化や次世代への継承へとつながるよう、川守田研究室では、今後もこうした伝統技法の現代的応用に向けてのさまざまな提案を継続していきたい。

謝 辞

本研究にご協力くださいました関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 青森県庁「青森県の伝統工芸品」：
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/shoko/chiikisangyo/dento-kogei_aomori.html（最終アクセス：2020年12月11日）
- 2) ダイヤモンド社：週刊ダイヤモンド，ダイヤモンド社，
2016年4月16日号，p.45，2016.
- 3) Business Journal「御朱印ガールブーム、ネットでは批判殺到も、寺社は歓迎」（2016年4月30日掲載）：https://biz-journal.jp/2014/09/post_5939.html（最終アクセス：2020年12月11日）
- 4) ソフトバンクニュース「御朱印集めにはシェアサイクルが便利？」（2018年7月11日掲載）：
https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20180711_01（最終アクセス：2020年12月11日）
- 5) 訪日ラボ インバウンドニュース「『御朱印集め』が訪日外国人観光客にも人気」（2020年5月22日掲載）：
<https://honichi.com/news/2020/05/22/goshuin/>（最終アクセス：2020年12月11日）
- 6) 参拝者と神主さんお坊さんが集う神社お寺の検索サイト「ホトカミ」：<https://hotokami.jp>（最終アクセス：2020年12月11日）
- 7) 神社本庁「御朱印」：
<https://www.jinjahoncho.or.jp/omai/osahou/goshuin>（最終アクセス：2020年12月14日）
- 8) 滝尻善英：奥州南部観音霊場巡り《糠部三十三札所》，デリー東北新聞社，2020.
- 9) 青森県神社庁：<http://www.aomori-jinjacho.or.jp/>（最終アクセス：2020年12月11日）
- 10) VISIT HACHINOHE <https://visithachinohe.com/spot/nanbuhisisasi/>
（最終アクセス：2020年12月11日）
- 11) 八田愛子・鈴木堯子：菱刺し模様集，菱刺し模様集刊行会，1980.
- 12) 縁起物百科事典：<https://engimono.net/>（最終アクセス：2020年12月11日）
- 13) CtoC ハンドメイドマーケット「minne」：
<https://minne.com/>（最終アクセス：2020年12月11日）
- 14) GMO ペパボ株式会社：<https://pepabo.com/company/>（最終アクセス：2020年12月11日）
- 15) hand made de モノ作り：<https://handmeid.tokyo/>（最終アクセス：2020年12月11日）

要 旨

南部菱刺しは、青森県南部地域の伝統的手仕事であり、津軽地域のこぎん刺しと並び、手芸品としての注目が集まっている。本稿では、地域文化研究の一環として、現代的感覚を重視した、若い女性層に訴求できるような新しい南部菱刺し製品の提案を行う。

キーワード:南部菱刺し, こぎん刺し, 地域文化研究, 手仕事, 現代的感覚, 若い女性層